

平成艸紙



おりおりの記

長岡さんの思い出

公益財団法人 資本市場研究会
理事長

篠沢 恭助

去る4月2日、当研究会の前理事長、長岡實さんが死去された。享年93才。今から10年余り前、この「月刊 資本市場」に箸休めのようなページを入れようと、この「おりおりの記」を始められたのが長岡さんだった。



▲長岡 實氏

長岡さんにはいつも大きな仕事がついて廻っていた。大蔵省（当時）時代の最後の4-5年は、①オイルショック後の大不況からの経済の立て直し、②米欧からの内需拡大を迫る強烈な外圧、③赤字国債発行開始直後の財政の国債依存度（そのころ30%を超えてしまった）をなんとか引き下げようとする斗い、この3大問題の相克に苦しんでおられた。

日本専売公社副総裁から始まった7年間には、「民営化」による日本たばこ産業株式会社の創設を成し遂げ、初代社長を務められた。

東京証券取引所理事長としての6年間には、バブルの発生による株価高騰とその崩落、そして損失補てん問題の表面化への対応に腐心された。

文字通り多事多端の中にあっても、長岡さんはどことなく周りにゆとりを感じさせ、それが長岡さんの人間的魅力だった。それは長岡さんの豊かな文化的素養によるものだったと私は思う。泉鏡花への傾倒、仏像めぐり、ぬる燗のお酒と終生のタバコ、メダカの飼育、オルゴールの蒐集、少年時代からの巨人ファンなど、かなり有名な話だった。時間の隙さえあれば書物に目を通されていた。ブラームス、シューベルトをはじめクラシックを愛好され、日本オーケストラ連盟理事長をはじめ、多くの音楽団体に関係された。日本たばこ産業在任中には日本のプロ・オーケストラの水準向上をサポートする目的でアフィニス文化財団を設立された。寮歌、日本唱歌も大好きだった。

日本の古典芸能への造詣も深く、晩年には、文楽観賞のためご夫妻でよく国立劇場（小劇場）に通われていた（同じ4月に、長岡さんと親交のあった人間国宝竹本住太夫師も亡くなられた）。江戸おもちゃが好きで、長岡ご夫妻に媒酌して頂いた職員が子供連れで年始の挨拶に伺うと、あらかじめ浅草寺仲見世でおもちゃを仕入れておいて子供さんを一生懸命遊ばせて下さったそうだ。

心からご冥福をお祈り申し上げます。